

子どもの声を聴くということ ～子どもの権利条約とエンパワメント～

講演：吉永省三さん

〔国連 NGO 子どもの権利条約総合研究所顧問〕

子どもの権利条約の成立と

日本の批准後 30 年の経過

～学校教育の現状を視野に～

10月9日(木)

18:30 開始

PLP 会館・4F 中会議室

大阪地下鉄扇町駅 4 番出口から南東約200m

JR 天満駅から南約500m

※参加費：300 円



1977年から兵庫県川西市で
中学校教員17年。荒れた中学校
での子どもらとのかかわりから
「子どもの権利」と出会う。94年
から市教委事務局主幹、子どもオ
ンブズパーソン制度を設計、99年
創設。06年千里金蘭大学教授、
22年退職。著書：『子どものエン
パワメントと子どもオンブズパー
ソン』共著：『子どもの相談・救済と
子ども支援』

不登校生の数や10代の自殺者の数が年々増えています。学校にいると息がつかまるという声もよく聞きます。こんな学校の現状は変えていかなくては いけません。その手がかりは、子どもの権利条約にあるのではないかと。子どもの 声を聴くことから始めるべきではないか。そんな問題意識で、吉永省三さんの 講演会を企画しました。吉永さんは、中学校の教員としての経験から「子ど もの権利」を土台にして学校で起きる問題にかかわる川西市「子どもオンブ ズパーソン」の立ち上げを主導され、その後も大学教員として、学校を変える ために子どもの権利条約について研究を深めてこられました。

D-TaC は、「現在の『君が代』指導は『教育』ではなく調教だ」「『君が 代』強制は『子どもの権利条約』違反だ」と訴えてきました。子どもの声を聴 くことから始める「君が代」強制反対運動を考えていきたいと思っています。

ぜひ多くみなさんと学びあいたいと思います。

